



JACET通信

大学英語教育学会

July 2007

The Japan Association of College English Teachers

No.159

会長挨拶

過ぎし2年そして来る2年は…

JACET会長 森 住 衛 (桜美林大学)

はじめに

すでに5月下旬の会員MLへの配信で、不肖私の会長再選の挨拶をさせていただきましたが、本欄でも改めてご挨拶申し上げます。幸いにも、神保尚武氏、岡田伸夫氏には副会長留任の快諾を得ました。任期の2年間をこの3名のトロイカ方式で全うできればと願っています。また、私個人としましては、支持して下さった皆様のご期待に添うように、また、支持を得られなかった皆様のご意見をできるだけ組み入れて、第2期目の任務を果たせればと願っています。皆様の忌憚ないご意見をお寄せいただきたく、よろしく願いいたします。

さて、私の第2期目の所信表明ですが、第1期目の会長就任時に出した3つ方針(学会の活性化・体制の整備・活動の発信)をそのまま踏襲させていただきます。その理由は、第1期目の2年間では、これが完成していないからです。以下に、要点だけですが、これまでの総括をしながら説明いたします。

学会の活性化

2年前に立てた方針は「役割や任期の分担、世代交代も含めて学会をさらに活性化させる。特に、若い人たち(たとえば、大学院生)の会員を大幅に増やして10年後、20年後の将来に備える」でした。この2年間で、役員の方針は「高等教育における英語教育

で世代交代も進んできました。会員数も、1990年以降続いていた下降傾向が微増に変わりました。大会・紀要・研究会・特別委員会などの活動も活発に行われています。しかし、全体の高揚感はいま一つの感があります。特に、若い人たちの参加の著しい伸びはありません。最近、北海道支部の研究企画委員から、「JACETは、若い研究者には魅力ある学会ではない」という批判も受けました。引き続き第2期目の重要課題だといえます。

体制の整備

「会則・規約などの集大成および財務管理の見直しを進める。特に、特別会計の利用法を考える。また、長年の懸案であった〈任意団体〉から〈公益法人〉への移行を進める」という方針のもとに取り組んできました。この2年間で、法人化の準備をしながら、会則・細則・規約の整合性など、かなり整ってきました。特に、財務については、専門家の力も借りて、社会的にも通用するように整備されてきています。特別会計もこの2年間で一本化し、中・長期のプロジェクトに組み入れることがはっきりしてきました。残る課題は、今期に社団法人化を実現し、組織としての定着の一步を踏み出すことです。

活動の発信

第1期目の方針は「高等教育における英語教育が大きく変容しつつある。学会として、何が変わ

るべきで、何が変わるべきでないかを発信する。関係諸団体との大同団結も呼びかける」でした。昨今の教育条件の変容については、全国大会テーマなどにも反映されているように、学会全体として対応して、それなりの成果をあげてきています。これは、実態調査・テスト開発研究・授業学研究の3つの特別委員会についてもいえます。しかし、これを関係諸機関や世の中一般に発信していくことはあまりしてきていません。特に、海外への発信は不十分でした。今後、国際交流委員会の助力も得てこれを強めていきますが、この4月から発足した特別委員会「ICT (Information/Communication Technology) 研究委員会」の活動などもこの点で強力な推進力になるはずで

おわりに

以上、3つに分けて概観しましたが、これは直接的な施策という点から「社団法人化の実現・定着」と「50周年記念関連事業の準備」の2つに集約されます。これが、「活性化・整備・発信」の実現につながるからです。私の会長としての任務は、今期にこの2つを全うして、次の代に委譲することだと思っています。

幸いにも、社団法人化は来年の4月に実現の予定で、現在、理事の定数の問題や事務局体制など最後の詰めに入っています。記念事業の検討も、

すでに3月の春期理事会で、「第50回記念国際大会」は神保副会長に、「50周年記念刊行事業（『大学英語教育学大系』[仮称]）は岡田副会長にお願いし、動き始めました。この当面の課題と近未来の構想のために、学会全体の英知を結集できればと願っています。9月の総会でも、直々に説明をさせていただきますが、会員の皆様には、各関係委員会に直接に、あるいは支部を通じて、多くのご意見をお寄せくださるよう、お願いいたします。

本部便り

代表幹事 寺内 一・高千穂大学

本部代表幹事として2年目を迎えました寺内一でございます。2007年度もよろしくお願い申し上げます。

本号では、1) 2007年度のJACET全体の活動予定、2) 2007年度正副会長・支部長・理事、3) 2007年度本部各委員会の活動予定、4) 「全国大会参加費」の払い込み、5) 全国大会の『大会要綱』の事前払い込み、6) 「JACET事務局からのお願い」の6点を取り扱っております。

1) 2007年度 JACET 全体の活動予定 (下表)

2007年度 JACET 全体の活動予定

| 月 | 日 | 項 目 |
|----|-----------------|--|
| 4月 | 18日(水) - 20日(金) | IATEFL (International Association of Teachers of English as a Foreign Language) 派遣 (The Aberdeen Exhibition and Conference Centre: UK) |
| | 23日(月) - 25日(水) | RELC (Regional Language Centre) 派遣 (Regional Language Centre: Singapore) |
| | 21日(土) | 月例理事会 |
| | 21日(土) | 本部理事・運営委員合同会議 |
| 5月 | 14日(月) - 15日(火) | AILA (Association Internationale Linguistique Appliquée) 国際理事会派遣 (Foreign Language Teaching and Research Press, Beijing) |
| | 19日(土) | 月例理事会 |
| | 19日(土) | 本部理事・運営委員合同会議 |
| 6月 | 6日(水) - 7日(木) | KATE (The Korea Association of Teachers of English) 派遣 (Gyeongin National University of Education, Gyeonggi Province: Korea) |
| | 16日(土) | 月例理事会 |
| | 16日(土) | 本部理事・運営委員合同会議 |
| | | 2006年度予算監査 |
| | 2日(土) | 関西支部春季大会 (関西学院大学) |
| | 9日(土) | 東北支部大会 (東北工業大学) |

| 月 | 日 | 項 目 |
|-----|--|---|
| 6月 | 9日(土) 24日(日) | 中部支部大会(石川県立大学) 関東支部大会(立教大学) |
| 7月 | 2日(月) 21日(土) 21日(土) | 『JACET通信』159号(日本語、印刷版)発行 月例理事会 本部理事・運営委員合同会議 |
| | 7日(土) | 九州・沖縄支部大会(久留米工業大学) 北海道支部大会(藤女子大学) |
| 8月 | 8日(水) 21日(火) - 24日(金) | 月例理事会 第35回サマーセミナー(草津セミナーハウス) |
| 9月 | 5日(水) 5日(水) 5日(水) 5日(水) 6日(木) 6日(木) - 8日(土) 15日(土) 15日(土) 15日(土) | 全国理事会(安田女子大学) 全国委員会(同上) 評議員会(同上) 顧問会議(同上) 総会(同上) 第46回(2007年度)JACET全国大会(安田女子大学) 月例理事会 本部理事・運営委員合同会議 全国大会反省会 |
| 10月 | 1日(月) 20日(土) 20日(土) 31日(水) | 『JACET通信』160号(英語、web版)発行 月例理事会 本部理事・運営委員合同会議 『紀要』45号刊行 |
| | 13日(土) | 関西支部秋季支部大会(滋賀県立大学) |
| 11月 | 9日(金) - 11日(日) 17日(土) 17日(土) 17日(土) 22日(木) - 24日(土) | ETA-ROC(English Teachers' Association-Republic of China)派遣 (Chien Tan Overseas Youth Activity Center: Taipei) 月例理事会 本部理事・運営委員合同会議 ALAK(The Applied Linguistics Association of Korea)派遣(The Centennial Hall, Sookmyung Women's University: Korea) JALT(Japan Association of Language Teachers)派遣(オリンピック青少年センター) |
| 12月 | 15日(土) 15日(土) 31日(月) | 月例理事会 本部理事・運営委員合同会議 『JACET通信』161号(大会特集号、日本語、印刷版)発行 |
| 1月 | 12日(土) 12日(土) | 月例理事会 本部理事・運営委員合同会議 |
| 2月 | 16日(土) 16日(土) | 月例理事会 本部理事・運営委員合同会議 |
| 3月 | 15日(土) 15日(土) 15日(土) 30日(日) - 31日(月) 31日(月) 31日(月) | 月例理事会 本部理事・運営委員合同会議 第16回春季英語教育セミナー(場所は未定) 春季全国理事会・社員総会(予定)(場所は未定) 『JACET通信』162号(日本語、印刷版)発行 『紀要』46号刊行 |

2) 2007年度正副会長・支部長・理事（敬称略・アルファベット順）

会長 森住衛（再任）
副会長 神保尚武（再任）・岡田伸夫（再任）
支部長 石田雅近・木村博是・小嶋英夫（新任）・西堀ゆり・西田正・山内ひさ子（新任）
理事 原田園子・石川祥一・木村松雄・木村友保・木下正義（新任）・倉橋洋子・見上晃・南出康世・森永正治・中野美知子・野口ジュディー・津多江・沼野治郎・岡秀夫・芝垣茂・高橋貞雄・富田かおる（新任）・山岸信義・矢野安剛

3) 2007年本部活動予定（敬称略）

3.1 運営委員会

総務委員会（石川祥一担当理事・寺内一委員長）：全国理事会・評議員会・総会の準備、毎月第3土曜日の月例理事会と本部合同会議の準備、各委員会・各支部との調整、事務局の統括、その他

財務委員会（見上晃担当理事・岡田礼子委員長（新任））：年間予算・決算・監査

全国大会運営委員会（芝垣茂担当理事・渡辺敦子委員長（新任））：全国大会の企画・運営（2007年度は2007年9月6日から8日まで安田女子大学で開催）

紀要委員会（岡秀夫担当理事・河野円委員長）：年2回の『紀要』の発行

広報通信委員会（木村松雄担当理事・尾関直子委員長（新任））：『JACET通信』の発行

事業委員会（山岸信義担当理事・浅川和也委員長）：サマーセミナーの企画・運営（2007年度は「L2ライティング教育の諸問題」で8月21日から24日まで草津セミナーハウスで開催）、春季英語教育セミナーの企画・運営（2007年度は3月15日に開催（場所未定））

ネットワーク管理委員会（中野美知子担当理事・上田倫史委員長（新任））：HPの管理・運営、MLの管理・運営

国際交流委員会（矢野安剛担当理事・相川真佐夫委員長（新任））：各提携学会との交流・代表の派遣

研究会担当委員会（岡田伸夫担当副会長・笹島茂委員長）：各研究会の活動のサポート

大学英語教育学会賞選考委員会（森永正治担当理

事・岡田伸夫（本部リエゾン）副会長）・高井収（以上2007年9月まで）/沼野治郎担当理事・高橋貞雄（本部リエゾン）理事・岩井千秋委員長（以上2007年10月より）：大学英語教育学会「学会賞」・「実践賞」・「新人賞」の選考と表彰

3.2 特別委員会

第2次組織構成委員会（新規）（神保尚武担当副会長兼委員長）：学会全体としての方向性や指針の検討

法人化準備委員会（神保尚武担当副会長兼委員長）：学会法人化に向けての諸問題の検討

実態調査委員会（2007年9月まで）（高橋貞雄担当理事・見上晃委員長）：日本の大学英語教育の実態の調査と把握、指針の提示

テスト研究開発委員会（2007年9月まで）（石川祥一担当理事兼委員長）：大学英語教育におけるテスト開発・分析・指針の提示

授業学研究委員会（2007年9月まで）（森住衛担当理事・山岸信義委員長）：大学における英語授業のあり方の調査と提言

ICT（Information / Communication Technology）研究委員会（新規：2009年3月まで）（矢野安剛担当理事・中野美知子委員長）：ICTを利用した21世紀型の英語教育の方法の開発と評価

4) 「全国大会参加費」の払い込み

全国大会に参加される方は以下の項目に応じて『大会プログラム』に同封されました「郵便振替用紙」でお支払いください。

4.1 事前支払い

8月9日（木）までに「大会参加費（一般会員3,000円、学生会員2,000円）」をお振込みください。なお、団体会員・賛助会員（展示をしない場合）で大会に参加する場合は、その団体から2名の方が会員扱いとなりますので参加者名を記入して大会参加費3,000円を「郵便振替用紙」でお振込みください。発表者・司会者の方は「大会参加費」の他に「年会費」の支払い（別途指定の振込み用紙にて）が必要ですので忘れずにお振込みください。同じく懇親会に参加される方は「懇親会費5,000円」を同じ「郵便振替用紙」で振込み予約してください。但し、定員がありますので、お早めにお申し込みください。なお、「領収証」が必要な方には大会当日、受付にてお渡します。

4.2 大会当日支払い

大会当日受付での支払額は「大会参加費（一般会員・団体会員・賛助会員すべて4,000円、学生会員3,000円、非会員は一般6,000円と学生4,000円）」となります。同じく大会会場で受付される場合の懇親会費は6,000円になりますのでご注意ください。「領収証」が必要な方には大会当日受付にてお渡しします。なお、大会当日、受付では「年会費」の支払いはできませんのでご注意ください。

5) 全国大会の『大会要綱』の事前払い込み

2006年度から「郵便振替用紙」による大会要綱の事前払い込みの取り扱いがなくなりました。大会に参加されずに『大会要綱』をご希望の方はJACET事務局全国大会運営委員会までEメール convention@jacet.org か FAX 03-3268-9695 にてご注文ください。代金は1冊1,500円（送料は別途1冊につき150円）です。

6) JACET事務局からのお願い

2006年度から本学会の業務の合理化と効率化を進めるために学会事務の一部、特に会員管理の部分を大学生協学会支援センターに委託しております。委託開始以来過渡期ということもあり皆様にはご不便をおかけしておりますがご理解の程よろしくお願い申し上げます。

6.1 「年会費」の支払い

毎年6月末日までに「年会費」支払いのお願いをしてまいりましたが、今年度も同様に早い時期でのお支払いをお願いいたします。4月に皆様に配信されました「大学生協学会支援センター内大学英語教育学会名簿・会費係（担当：井手様）」の振込用紙をご使用ください。なお、同振込用紙を紛失なさった方は以下に連絡してください。電話03-5307-1175、FAX 03-5307-1196、Eメール jacet@univcoop.or.jp

昨年度同様、当該年度の会費未納者の方へは会費が納入されるまで事務局からの発送物を停止させていただいておりますが、今年度も10月第1週に「督促状」の発送、その後2週間以内に納入されていない場合は発送の停止を行なうことになります。また、本年度中にお支払いがない場合は会員資格を失いますのでご注意ください。

6.2 所属・Eメールアドレスなどの変更

会員の所属やEメールなどの変更は、「会員自ら」が大学生協学会支援センター大学英語教育学会専用のEメールアドレス jacet@univcoop.or.jp に

直接連絡することになっております。JACET事務局に連絡されても会員情報の変更はできないことになっておりますことをご確認ください。

6.3 『2007年度大学英語教育学会(JACET)名簿』記載情報

2007年度も『大学英語教育学会(JACET)名簿』を作成いたしますが、個人情報保護法の問題もあり、会員の皆様の掲載情報は原則として昨年度の版と同じ（氏名・Name・〒・自宅住所・自宅TEL・自宅FAX・Eメール・所属・所属TEL・専門分野（①英語教育学、②英語・言語学、③応用言語学、④英米文学、⑤その他）にさせていただきます。今年度、掲載情報の変更を要望なさる方は以下の手続きをお取りください。

手続き：掲載情報の変更を8月15日（水）まで（必着で締め切り厳守）に、「大学生協学会支援センター内大学英語教育学会名簿・会費係（担当：井手様）」宛にFAX03-5307-1196（『2005年度名簿』の当該ページをコピーし内容を修正したもの）でお送りください。Eメールでの受付は jacet@univcoop.or.jp になります。なお、今年度、新たに会員になられた方は、上記の掲載情報を取捨選択し8月15日（水）までに、「大学生協学会支援センター内大学英語教育学会名簿・会費係（担当：井手様）」宛にFAX03-5307-1196（上記の内容が含まれていれば書式自由）でお送りください。

6.4 JACET刊行物の販売

JACETで刊行された出版物の支払い方法を2007年4月1日より以下のように統一させていただきます。

支払方法

- ①すべて「前払い」とします。
- ②送料と手数料込みで1冊につき「150円」とし、これも「前払い」とします。

手続き

- ①JACETへEメール jacet@zb3.so-net.ne.jp またはFAX（03-3268-9695）で申し込みを行います（注意：氏名・メールアドレス・JACETよりの連絡方法・「何を何冊購入したいのか」を明記してください。在庫がない場合がございます）。
- ②JACET事務所から連絡を受けてから所定の「郵便振替用紙（払込取扱票）」で振り込んでください。（書名・希望冊数を「通信欄」に、送付先の住所氏名を「払込人住所氏名欄」に必ずご記入く

ださい)。口座番号：00110-7-61932、加入者名：大学英語教育学会、通信欄：「書名」と希望冊数、払込人住所氏名欄：送付先住所、氏名をお書きください。

なお、販売対象のJACET刊行物と在庫数は以下のとおりです。

・紀要

| 号 | 13号 | 25号 | 27号 | 28号 | 29号 | 30号 |
|----|------|------|------|------|------|------|
| 定価 | 1000 | 1500 | 1500 | 1500 | 1500 | 1500 |
| 在庫 | 5 | 4 | 1 | 4 | 4 | 2 |
| 号 | 31号 | 32号 | 33号 | 34号 | 35号 | 36号 |
| 定価 | 1500 | 1500 | 1500 | 2000 | 2000 | 2000 |
| 在庫 | 11 | 4 | 10 | 3 | 102 | 18 |
| 号 | 37号 | 38号 | 39号 | 41号 | 42号 | 43号 |
| 定価 | 5000 | 5000 | 5000 | 5000 | 5000 | 5000 |
| 在庫 | 14 | 11 | 118 | 396 | 436 | 230 |
| 号 | 44号 | | | | | |
| 定価 | 5000 | | | | | |
| 在庫 | 225 | | | | | |

・大会要綱（定価 1,500 円）

| 大会 | 41回 | 42回 | 43回 | 44回 | 45回 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 在庫 | 52 | 59 | 60 | 153 | 170 |

・サマーセミナー・プロシーディングス
（定価 500 円）

| 号 | NO.1 | NO.2 | NO.3 | NO.4 | NO.5 |
|----|------|------|------|------|------|
| 在庫 | 151 | 52 | 99 | 1 | 17 |

・実態調査委員会報告書

| 書名 | 定価 | 在庫 |
|---|-------|------|
| わが国の外国語・英語教育に関する実態の総合的研究－大学の学部・学科編－ | 1,500 | 406 |
| わが国の外国語・英語教育に関する実態の総合的研究－大学の外国語・英語教員個人編－ | 1,500 | 1662 |
| 大学英語教育に関する実態と将来像の総合的研究（Ⅱ）－学生の立場－ | 1,000 | 6 |
| 早期教育・中学校・高等学校の英語教育における実態と将来像の総合的研究(海外子女教育を含む) | 1,000 | 23 |
| 職業人から見た英語研究に関する実態と将来像の総合的研究 | 1,000 | 34 |

| 書名 | 定価 | 在庫 |
|---|-------|----|
| わが国の英語教育に関する実態と将来像の総合的研究（「職業人から見た英語研究に関する実態と将来像の総合的研究」別冊） | 1,000 | 34 |

・その他

| 書名 | 定価 | 在庫 |
|--|-------|-----|
| 中等教育英語科教員養成カリキュラムの諸問題 | 500 | 65 |
| 現代若者ことばの潮流－距離をおかない若者たち－ | 300 | 7 |
| 日本の地方自治体における言語サービスに関する研究－21世紀多言語社会への助走－ | 1,000 | 3 |
| 外国語としての英語のHearing能力形成要因の実証的研究（Ⅱ） | 500 | 3 |
| AILA SELECTED PAPERS | なし | 12 |
| 新時代の英語教員養成－現状と展望－（小・中・高の英語教員の現状）に関する調査報告書 | 500 | 127 |
| 高等教育における英語授業の研究－授業実践事例を中心に－ | 2,900 | 71 |
| アジア言語教育政策会議報告書 | 2,500 | 60 |
| 大学英語教育学会基本語リスト JACET8000（＋CD） | 800 | 616 |
| 大学英語教育学会基本語リスト活用事例集：教育と研究への応用 JACET8000活用事例集 | 500 | 145 |
| 大学設置基準改正に伴う外国語（英語）教育改善のための手引き（2）－大学の外国語（英語）教育における点検・評価を中心にして－（JACETハンドブック） | 1,000 | 101 |
| 『英語購読用教科書のあり方』についてのアンケート調査報告－「JACET基本語第2次案」を中心に－ | 500 | 83 |

ご協力とご理解の程よろしくお願ひ申し上げます。

支部便り

〈九州沖縄支部〉

1. 第67回東アジア英語教育研究会

日時：4月21日（土）15:30～17:00

場所：西南学院大学1号館205号教室

発表者：木下正義（福岡国際大）

発表題名：中国の外国語教育政策について—学習
ストラテジー中心に—

2. 第68回東アジア英語教育研究会

日時：5月12日（土）15:30～17:00

場所：西南学院大学1号館508号教室

発表者：Robert Fouser（鹿児島大）

発表題名：Language Education Policy in South
Korea: Searching for Balance

3. 第1回運営委員会

日時：5月19日（土）13:30～17:20

場所：久留米工業大学本館3F会議室

議題：

- (1) 2007年度予算案について
- (2) 第21回支部研究大会について（大会要綱の検
討、その他）
- (3) 支部紀要について（編集スケジュール、その
他）
- (4) 秋期学術講演会について（講演者の検討、そ
の他）
- (5) 2011年全国大会について（開催地等につい
て）

報告：

- (1) 春季理事会報告
- (2) ニュースレターNo.23送付報告

4. 第1回紀要編集委員会（予定）

日時：6月16日（土）13:00～14:30

場所：西南学院大学

議題：

- (1) 投稿論文の審査及び査読者について
- (2) 今後の編集スケジュールの確認
- (3) 協賛広告募集の依頼について

5. 第2回運営委員会（予定）

日時：6月16日（土）14:30～17:00

場所：西南学院大学学術研究所

議題：

- (1) 2007年度予算案について
- (2) 第21回支部研究大会について

(3) その他

6. 第69回東アジア英語教育研究会

日時：6月16日（土）15:30～17:00

場所：西南学院大学1号館205号教室

発表者：Terry Laskowski（熊本大）

発表題名：未定

7. 第3回運営委員会（予定）

日時：7月6日（金）17:00～18:30

場所：ハイネスホテル久留米

議題：

- (1) 第21回支部研究大会について
- (2) その他

8. 第21回支部研究大会および支部総会（予定）

日時：7月7日（土）9:30～17:10

場所：久留米工業大学

大会テーマ：「英語教育における学習ストラテジ
ーと学習タスクより良い授業を求めて—」

1) 研究発表

- ・「In Search of Good Vocabulary Learning
Strategies: Facing the Challenge of Improving
Low Vocabulary Levels at Japanese Colleges」
John P. Loucky（西南女学院大）
- ・「Merits and Demerits of Authentic and Self-
Made Videos」Masakazu Someya（大分県立芸術
文化短大）
- ・「米TVドラマを使用した中上級者向けリスニ
ング授業実践報告」ディム美樹（西鉄国際ビジ
ネスカレッジ）
- ・「学生は大学でのTOEIC対策に何を求めている
のか」徳永美紀（中村学園大）
- ・「第二言語としての英語と日本語の習得におけ
る『同型写像仮説』の妥当性」伊藤彰浩（愛知
学院大）
- ・「A Comparison of Two Center Shiken Based on a
25-year Gap」Michael Guest（宮崎大）
- ・「コミュニケーション・ライティング・クラスに
関して—コントラストティブ・レトリックの視点
から—」平野順也（熊本大・非）
- ・「『かのや英語大好き特区』における小学校英
語教育の現状」吉重美紀（鹿屋体育大）
- ・「基本動詞のコロケーションについてのコーパ
ス分析—日本人英語学習者のスピーキング能力
向上に資する言語材料を求めて—」猿渡翌加
（鳥原翔南高）・稲毛逸郎（長崎大）
- ・「大学必修英語におけるESPの課題とEnglish

for Career Development の試み：実践報告」津田
晶子（中村学園大短大部）

- ・「コメディカル養成課程学生の英語学習への対
策と学習ストラテジー」永野喜子（久留米大・
非）
- ・「The Study of Akira Kurosawa in the Japanese
University EIL Classroom」Rie Karatsu（県立長
崎シーボルト大）
- ・「Test-taking Processes for the Cloze by EFL
Readers」Mihyang Han（Dong-A Univ.）・
Dong-Ho Kang（Seoul Nat'l Univ. of Tech.）

2) 支部総会

3) シンポジウム

「英語教育における学習ストラテジーと学習タ
スクーより良い授業を求めて—In Search of
Good Practice: Learning Strategies and Learning
Tasks in EFL/ESL」Coordinator: Hiroki
Yamamoto（西南女学院大）、Chair: Robert
Fouser（鹿児島大学）、Panelists: Shinhye Kim
（Keimyung Univ.）・Naoko Ozeki（明治大）・
Osamu Takeuchi（関西大）・Yasuo Nakatani
（東京理科大）・Chieko Kawauchi（久留米大）

9. 東アジア英語教育研究会研究収録 *Studies in
English Teaching and Learning in East Asia* 第2号
7月上旬発行予定

10. 第2回紀要編集委員会（予定）

日時：7月21日（土）13:00～14:30

場所：久留米大学

議題：

- (1) 査読結果について
- (2) 加筆修正論文の再提出について
- (3) 協賛広告再募集について

11. 第70回東アジア英語教育研究会（予定）

日時：7月21日（土）15:30～17:00

場所：西南学院大学1号館205号教室

発表者：大津敦史（福岡大）

発表題名：未定

12. 第3回紀要編集委員会（予定）

日時：9月1日（土）13:00～14:30

場所：宮崎県立看護大学

議題：

- (1) 加筆修正論文の再審査の結果について
- (2) 印刷業者の選定について
- (3) 協賛広告業者の確認について

13. 第4回運営委員会（予定）

日時：9月1日（土）14:30～16:00

場所：宮崎県立看護大学多目的ホール

14. 第71回東アジア英語教育研究会（予定）

日時：9月22日（土）15:30～17:00

場所：西南学院大学1号館205号教室

発表者：津田晶子（中村学園大短大部）

発表題名：未定

（志水俊広・九州大）

〈中国・四国支部〉

平成18年度第2回役員会

日時：2007年3月3日（土）

場所：広島大学千田町キャンパス

審議事項：

- (1) 2006年度支部活動報告
- (2) 2006年度支部会計決算
- (3) 2007年度支部活動計画案
- (4) 2007年度支部予算案
- (5) 2007年度支部役員案
- (6) 各種支部費案
- (7) その他

報告事項：

- (1) 2006年度支部活動報告
- (2) 組織委員会報告
- (3) JACET賞選考委員会
- (4) 全国大会準備状況
- (5) その他

（鳥越秀知・詫間電波高専）

〈関西支部〉

主な行事

1. 2007年2月10日（土）

卒論修論研究発表セミナー（共催）関西大学

2. 2007年2月11日（日）

役員打ち合わせ会 関学梅田キャンパス

■ 理事支部長幹事打ち合わせ会

3. 2007年3月4日（日）

■ 第2回講演会

日時：2007年3月4日（日）15:30～17:00

場所：関学梅田キャンパス

講師：西村和雄氏（京都大）

演題：日本の教育—私達の責任は何か—

司会：岡田伸夫氏（大阪大）

4. 2007年3月4日（日）

■ 第4回運営委員会 関学梅田キャンパス

■ 第4回研究企画委員会 関学梅田キャンパス

5. 2007年度関西支部春季大会

日時：2007年6月2日（土）10:00～17:50

場所：関西学院大学・西宮上ヶ原キャンパス

■ ワークショップ

- ・「経済学部生への英語教育：国際経済専攻学生のためのESP教材をデザインする」Virginia Mary Peng（立命館大）、井村誠（大阪工業大）、桐村亮（関西大）、新田香織（近畿大）、幸重美津子（京都外国語大）
- ・「e-Learningによる英語教育の展開」山本英一（関西大）、小野隆啓（京都外国語大）、柏原郁子（大阪電通大）、高橋新（大阪大）

■ 実践報告

- ・「大学における幼児英語教育の試み—指導者養成を目的として—」牧野眞貴（関西国際大・非）
- ・「映画、対訳シナリオ、Graded Readerを併用した授業の試み」神谷健一（大阪工業大）、村尾純子（大阪工業大）
- ・「Self-accessによる学習者コミュニティの構築」藤澤良行（大阪樟蔭女子大）、Ann Mayeda（大阪樟蔭女子大）

■ 研究発表

- ・「語彙サイズ測定テスト(望月)とThe Vocabulary Levels Test (Nation, Schmitt)に関する一考察— 相関性を中心に—」森永弘司（立命館大）
- ・「英単語親密度に基づく音声語彙力調査—リスニング力との関係を探る—」島本たい子（関西外国語大短大部）、吉村満知子（関西外国語大・非）、山本みどり（立命館大・非）
- ・「処理効率得点を用いたL2ワーキングメモリ容量とガーデンパス文処理との関係—日本人英語学習者における心理言語学実験—」中西弘（神戸大・非）
- ・「Peer-editingで得られるもの、得られないもの」中西のりこ（関西国際大・非）
- ・「TADと英語の現在完了の一考察」傅建良（関西学院大大学院生）

■ シンポジウム

「外国語学習を科学する」司会：林桂子（広島女学院大）、パネリスト：若林茂則（中央大）、大石晴美（岐阜聖徳学園大）、門田修平（関西学院大）、成田一（大阪大）

（奥田隆一・和歌山大）

〈中部支部〉

2007年3月、4月分の中部支部報告です。

第9回支部役員会

日時：3月10日（土）13:30～14:30

場所：中部大学 名古屋キャンパス

報告事項：

- (1) 理事会報告
- (2) 支部研究会活動費の決算報告
- (3) ESP研究会から
- (4) 2006年度授業学研究委員会支部代表について

協議事項：

- (1) 平成19年度第24回中部支部大会について
- (2) ニュースレターの執筆担当者について

第1回支部役員会

日時：4月21日（土）13:00～14:30

場所：中部大学 名古屋キャンパス

報告事項：

- (1) 理事会・組織構成委員会報告
- (2) Information/Communication Technology (ICT) 研究委員会の設立

協議事項：

- (1) 支部大会の本部からの派遣者について
- (2) 平成19年度第24回支部大会（石川県）プログラムの確認
- (3) 支部基金の扱い
- (4) 2007年度予算について
- (5) 2007年度人事案

また平成19年度第24回中部支部大会（石川県）の運営委員会が4月14日（土）11時より石川県立大学で開かれました。初めての愛知県以外の大学での支部大会開催であり、下見を兼ねての運営委員会でした。

（村田泰美・名城大学）

〈関東支部〉

1. 第2回関東支部大会、及び、関東支部総会

日時：2007年6月24日（日）

場所：立教大学

後援：立教大学英语教育研究所

大会テーマ：「大学の英語カリキュラムの現状と未来」“College English Curricula in Japan: Present and Future”

プレリミナリーセッション（立教大学英语教育研究所共同開催）

日時：2007年6月23日（土）
テーマ：「現代英語教育学の諸相：JACET 関東
地区研究会が語る知の先端」

場所：立教大学

2. 支部合同会議

日時：4月21日（土）16:00～16:30

5月19日（土）16:00～16:30

6月16日（土）16:00～16:30

場所：JACET 事務所

3. 支部月例研究会

第1回 2007年4月21日（土）

（中尾正史・桐朋学園芸術短大）

〈東北支部〉

1. 支部役員会

5月12日（土）12:00-15:00 東北工業大学一番町
ロビー

東北支部5月臨時役員会が東北工業大学一番町ロ
ビー4階ホールで開催された。以下の点について
協議した。

- (1) 本年度東北支部役員について
- (2) 前年度決算・本年度予算案について：支部紀
要の作成の仕方・支部ホームページの立ち上
げの可能性と必要性について
- (3) 本年度支部活動計画について
6月9日（土）支部大会について
10月役員会・例会 10月13日（土）12:00～
18:00 東北工業大学一番町ロビー
12月役員会・例会 12月8日（土）12:00～
18:00 東北工業大学一番町ロビー
- (4) 「大学英語教育学会東北支部規約」について
- (5) 2010年度東北支部担当のJACET全国大会に
ついて
- (6) その他 本部からの研究会補助金について、
支部通信について

2. 支部大会

6月9日（土）14:00-17:50 東北工業大学一番町
ロビー

研究発表

- (1) 日野克美（宮城大）「大学教養英語の改革実
践」
- (2) 清水研明（福島県立医科大）「複線型修辞構
造について」
- (3) 内藤永（旭川医科大）・坂部俊行（道都大）
「北海道の産業界における英語ニーズの実態

調査—平成18年度実施の事業所インタビュー
調査をふまえて—」

講演

講師：岡田伸夫（JACET 副会長・大阪大）

演題：「大学英語教育における英文法指導をめぐ
って」

3. 今後の予定

6月9日（土）に東北支部6月役員会および東北支
部大会が開催される予定である。また、役員会と
月例会を10月と12月に仙台で開催する計画であ
る。『JACET 東北支部通信』No. 32とNo. 33がそ
れぞれ9月と3月に、*TOHOKU TEFL*（JACET 東
北支部紀要）VOL. 2が3月に発行される予定とな
っている。

（東北工業大・宮曾根美香、宮城大・弓谷行宏、
宮城工業高専・岡久美子）

〈北海道支部〉

1. 研究会の開催

a) 2006年度第3回研究会

日時：2月3日（日）15:00～17:00

場所：北海道大

20周年記念特別予算各賞受賞者の発表と選考過程
報告：選考委員長要春光（北海道武蔵女子短大）
受賞の言葉：支部賞 廣森友人（愛媛大）、実
践・研究プロジェクト「授業学研究委員会」（代
表：佐々木智之・北海道工大）
受賞者発表1：支部大会奨励賞「ESP 北海道の活
動報告」（代表：内藤永・旭川医大）
受賞者発表2：支部新人賞「英語と日本語におけ
る読解方略使用の関係性の比較」（松本広幸・北
海道札幌工業高）

b) 2007年度第1回研究会

日時：4月21日（土）13:00～14:30

場所：藤女子大

研究発表1：What's the FIFU?: Introduction and
Teachers' Feedback（米沢スザンヌ・北海学園大、
志村昭暢・北海道教育大旭川校大学院生、目時光
紀・北海学園大/北海道工業大・非）

研究発表2：「身近な題材を通して学ぶ『自己表
現』（Self Expression in English）と『時事英語』
（Current Topics）入門のすすめ」（山西敏博・札
幌国際大）

2. 支部役員会の開催

a) 2006年度第4回役員会

日時：2月3日(土)13:00～15:00

場所：北海道大

支部長報告、幹事報告、ニューズレター発行について、葬儀派遣旅費の支出について、2007年度支部役員名簿について、法人化に伴う代議員の選任について、2006・2007年度活動計画について、2006・2007年度予算決算報告について、JACET北海道支部創立20周年記念助成金受賞者について、東北支部大会派遣者について

b) 2007年度第1回役員会

日時：4月21日(土)14:30～17:00

場所：藤女子大

支部長報告、幹事報告、各種委員会報告、支部大会について、2007年度活動計画について、2009年度全国大会役員について、2006年度の決算報告について、支部HP担当委員会について、2008年度代議員選出について、第48回全国大会の大会テーマ主旨について

3. 紀要およびニューズレターの発行

Research Bulletin of English Teaching 第4号が1月30日付けで、JACET北海道支部ニューズレター第20号が3月31日付けで発行された。

4. 今後の予定

JACET北海道支部大会

月日：7月7日(土)

場所：藤女子大

総会、研究発表、講演：中野美知子（早稲田大）「ICTを活用した実践コミュニケーション能力の育成—早稲田大学の大胆な試み—」

(河合靖・北海道大)

研究会紹介

東アジア英語教育研究会

代表 木下正義・福岡国際大学

1999年度に「教材研究会」と「学習実態調査研究会」が合併して、「東アジア英語教育研究会」が誕生した。本研究会の目的は東アジア諸国のEFLやESLの状況や実態について研究し、東アジア諸国の英語教育に拘わっている研究者と研究や文献・資料の交換や交流を主とするものである。研究の目的・目標を明確にして各研究分担グループを構成して次の項目を研究し、研究発表をする。

1) 東アジアの中・高・大学の英語（検定）教科

書及び教材に関する研究、2) 東アジアの中・高・大学の英語教育のシラバスに関する研究、3) 東アジアの高校・大学入試（英語）問題に関する研究、4) 東アジアの英語教員養成の現状と実態に関する研究、5) 東アジアの中・高・大学での英語教授法に関する研究、6) 東アジアの早期英語教育に関する研究である。1999年3月20日に第1回研究発表会をして、今年5月には第68回の研究会となった。会員数も北は北海道から南は鹿児島まで当初の16名から58名と増加した。会員の校種も小・中・高・大学及び専修学校より成っている。研究会は毎月第3土曜日に西南学院大学で開催している。詳細はホームページ、<http://www.yuldo.net/asian-eng/index-j.htm>をご覧ください。

特色ある大学英語教育プログラム ～神田外語大学

関屋 康・神田外国語大学

神田外語大学は1987年の開学当初より、培った幅広い教養をもとに様々な状況で英語の4技能を駆使できる実践的な英語運用能力を育成することを教育目標の1つに掲げてきた。その特徴は、一言で云えば“3I's”（3つのI）と呼ばれている次の概念に集約出来よう。

① **Individualization**（学生が自らの特性に合った学習方法を発見し、責任を持って学習を遂行していく）、② **Interdependence**（学生同士助け合い、お互いから学ぶ）、③ **Interaction**（高密度のインタラク션을行う）。そして、この概念を「英語カリキュラム」と「SACLA」という自律学習支援センターを有機的に連動させることで具現化している。

英米語学科の英語カリキュラムは1～2年次の「Basic English Proficiency Courses」（26単位）と3～4年次の「Advanced English Proficiency Courses」（20単位）の2つに大きく分けられる。Basic English Proficiency CoursesのカリキュラムのコアはFreshman English（8単位）の授業である。人間関係、音楽、環境等の様々なテーマに基づき、3～4週間単位でモジュールが組み立てられており、特定的话题を扱う中で、ペアやグループ・ワーク、プレゼンテーション等の様々な言語活動を通して、“3I's”に基づく学習法を身につけ、英語運用能力

の向上を目指す。授業は全て英語で行われ、学生も英語のみの使用が求められる。

3～4年次の Advanced English Proficiency Courses は、1つのテーマに基づいて科目が構成されている、所謂 Sustained Content-Based Courses という、内容中心の4技能統合型授業である。英語の講義科目ではなく、あくまでも学生中心の授業で、特定の内容について読み聞きしたものを要約・分析或いはディスカッションしたり、調べ学習をした後でグループ発表するといった活動が中心になる。ここでも先述の“3I's”が重要視される。現在、地域・文化研究、国際関係、文学、心理学、英語教育、音楽等の様々な分野から50以上のトピックの講座が開講されており、学生は自分が興味を持てるトピックの講座を3～4年次に5講座(20単位)選択し履修することになっている。

実践的な英語運用能力養成の様々な取り組みの中で無視できない問題が、学生の能力や学習スタイル等の個人差であった。通常授業の中での少人数制や能力別クラス編成等の工夫では十分に対応できなかったこの問題の解決法として自律学習支援システムを導入し、この取り組みが平成15年度の文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」にも採択された。

自律学習支援システムの中核は「SACLA」(Self-Access、Communication、Learner Autonomy)センターである。本センターは、2階建ての総面積4,000m²のスペースに次の3つのセクションが設けられている。

1. SALC (Self-Access Learning Center)

DVDやビデオ、CD-ROMなどの視聴覚教材や書籍を備え、学生が選択した時間・教材・スタイルで学習できるエリアである。教材も自学自習し易いように教材使用法を付ける等、様々な配慮も施されている。①ビデオやDVDで映画を観てリスニングの訓練をする、②個室の専用ブースで発音独習をする、③多目的ルームでグループプレゼンテーションの練習をする、等の多様な使い方が可能である。

英語教授法の修士号を持つ専任ラーニング・アドバイザー8名が常駐し、学習法や教材の選定・使用法への助言やカウンセリングを行う。英語を教えるのではなく、学生が自分の弱点や最適な学習スタイル、目指すべき目標に気づくよう導く facilitator の役割を果たす。SALCの使用は自発性

に任されており、多読の宿題、グループプレゼンの練習といった授業関連の教室外での活動で使われることも多い。更に、ラーニング・アドバイザーを中心に The First Steps Module という、平均週3時間で8週を要するモジュールを提供し、活用を促し自律学習させている。学生達はタスクを通して「ニーズ分析」、「時間の使い方」、「学習スタイル」、「学習ストラテジー」等を学び、最終的に自分の英語学習計画を作成する。続く The Learning How to Learn Module では、学習計画を遂行し、週毎に学習を振り返って、目標が到達できたか否かを点検し、次の学習に結びつけるよう自己管理に導かれる。どのモジュールでも、学習者はラーニング・アドバイザーに定期的に学習日誌を提出し、相談しながら学習を進める。



〈SALC〉



〈SALC内多目的ルーム〉



〈SALC内ビデオ・DVD視聴ブース〉

2. ELI ラウンジ

現在、55名の英語教育や応用言語学の修士号を持つELI教員が英語教育の中核を担っており、1～2年次の英語授業の100%、3～4年次の英語の授業の70%を専任教員が担当している。ELIラウンジには月曜から土曜の11時～17時まで最低3名のネイティブ教員が常駐、「言語は社会現象である」の考え方を基礎に多様な文脈中で英語を使う機会を提供する。隣には、予約制で予めトピックを決めてELI教員と1対1で会話練習できるSpeaking Practice Centerと自作の英語エッセイへの助言が受けられるWriting Centerもあり、積極的に活用されている。



〈ELIラウンジ〉



〈BLS（多機能教室）〉

3. BLS (Blended Learning Space)

この多機能教室は、“3I's”を教室内で実現し易い様に、可動式の机と椅子を装備し、短時間でペアやグループ、クラス全体等様々な授業形態が採れる。インターネット環境やビデオ・DVD対応の視聴覚設備によって多彩な情報源にアクセスすることも可能である。上述のFreshman Englishの授業はこのBLSを使って行われている。

上述の3エリアは設定が全て英語空間で、常勤スタッフ及びアルバイト学生スタッフも、英語を使って仕事を行う。3エリアは独立しておらず、授業で学んだ表現をELIラウンジで試す・授業中にSALCエリアでネットから情報を集める、等々の教育と学習が多様な方法・教材を用いて柔軟に行われ得るよう工夫されている。「SACLA全体が教室或いは学習環境だ、という考え方」なのである。

以上のように、本学では教室内の英語授業と教室外の学習環境を効果的に結びつけ、確かな英語運用能力を育成するという教育目標の達成に努めている。“3I's”という自律学習精神を培う概念に基づいた学習支援システムを有機的に活用して、学生自らが英語の4技能の習得だけでなく、周辺関連知識も併せて修得することを重視しながら、真の意味での実践的英語運用能力を備えた人材養成を目指しているのである。

国際交流委員会便り

委員長 相川真佐夫・京都外国語短期大学

国際交流委員会は提携学会との連絡役として、派遣に関する業務を執り行っています。今年の安田女子大学で行われる第45回JACET全国大会には次の招待講演者を迎える予定です（5月末現在）。

ALAKからKwon Heok-Seung教授、ETA-ROCからHui Olivia Chang教授、KATEからKim Young-Seok教授です。また、ETA-ROCからのHui教授は全体シンポジウムにてパネリストとしてもご参加くださいます。

2006年度の提携学会への代表派遣は、ALAK Conference（10月）：峯石緑先生（広島国際大）、ETA-ROC Symposium（11月11～13日）：相川

真佐夫(京都外国語短大)、IATEFL Conference (4月8～12日)：村田久美子先生(早稲田大)、RELC Seminar (4月18～20日)：神保尚武先生のグループ(4名)、鈴木広子先生のグループ(2名)でした。また、福岡で行われたThe 4th Asia TEFL Conference (8月18～20日)へは森住衛JACET会長を派遣しました。海外提携団体への代表者派遣は、これまで交流団体の大会テーマに沿った研究発表が可能な会員を広く公募して選出していましたが、単に研究発表の交流にとどまり、より進んだ交流に発展しませんでした。そのため、共同研究や共同シンポジウム企画など、より進んだ交流に発展させるため、今後2～3年間は国際交流委員を派遣し、その基盤作りを行うことになりました。

2007年度4月以降の提携学会については、the 42nd IATEFL Annual Conference and Exhibition (April 18-20, Exeter)には笹島茂先生、the 42nd RELC International Seminar (April 23-25, Singapore)には堀素子先生がすでに代表として派遣されています。また、2007 AILA EBIC meeting (May 14-15, Beijing)には、矢野安剛国際交流担当理事が出席しました。

法人化準備委員会報告

担当理事 神保尚武・早稲田大学

JACETの社団法人化に向けて、2006年度には第7回から第14回まで、8回の委員会を開催しました。作業委員会も2回ほど長時間にわたり、開催しました。文科省との公式折衝5回の他、数回の非公式折衝を行いました。その結果、申請の正式窓口が高等教育局大学振興課に決定しました。

2007年度は、法人化認可の内示が出るまで活動を続ける予定です。5月14日の文科省との事前相談で、正式な申請手続きに入れる見通しとなり、2008年度4月には任意団体から法人への移行がなされる予定です。組織の大きな改革となりますので、漸次お知らせいたします。

研究会担当委員会より

委員長 笹島 茂・埼玉医科大学

研究会出版物刊行についてのお知らせ

2007年4月1日より、研究会出版物刊行の内容が変わりましたのでお知らせします。詳しくは、JACETのHPをご覧ください。改訂の要点は次の2点です。

①著作権は上記出版物の編者及び著者に帰属する。印税が生じた場合は、出版社より支払われる初版の印税額から別紙による必要経費を差し引いた後、その残額の5割を本部、5割を当該研究会の出版物の編者及び著者が受領する。

②「表紙」「扉」「奥付」には、従来通り、「大学英語教育学会(JACET)〇〇研究会」と明記するだけでもよいが、編者及び著者等の個人名を加えてもよい。

また、研究会出版物刊行の手続きについての概略は下記の通りです。書類はいずれもJACETのHPよりダウンロードできます。

1. 「出版計画書」の作成と提出

1.1. 印税の発生の有無にかかわらず、研究会会員の半数以上の合意に基づいて出版計画を立案する。

1.2. 「出版計画書」に必要事項を記入して、研究会担当委員会委員長にメール添付で書類を提出する。

2. 「出版社選定書」の作成と提出

2.1. 印税の発生する場合、及び、印税が発生しない場合でも店頭で販売される場合

・特定の出版社に偏らないように配慮し、原則として3社以上の出版社を候補として立てる。

・出版社の選定根拠および最終決定に至るまでの経緯を明確にする。

・「出版社選定書」に必要事項を記入して、研究会担当委員会委員長にメール添付で書類を提出する。

2.2. 印税の発生しない場合

「出版社選定書」の提出は不要。

3. 印税の発生する場合、及び、印税が発生しない場合でも店頭で販売される場合は、次の2種類の書類の作成と提出(いずれも郵便)

3.1. 「JACET出版物の印税等に関する覚書」の作成と提出

「JACET出版物の印税等に関する覚書」に必要な事項を記入し、署名捺印をした「JACET出版物の印税等に関する覚書」文書2通をJACET事務局に郵便で提出する。その後、JACET会長が署名捺印をした当該「JACET出版物の印税等に関する覚書」文書の1通を研究会代表に郵送される。なお、再版の場合も同様にこの「覚書」を作成するものとする。

3.2. 「出版契約書」の作成と提出

出版社に「出版契約書」3通の作成を依頼し、出版社及び当該研究会編著者の署名捺印がされた当該「出版契約書」3通をJACET事務局に郵便で提出する。その後、JACET会長が署名捺印した当該「出版契約書」の2通が出版社に郵送される。

4. 研究会出版物の提出

すべての出版物をJACET事務局に1部提出する。

5. 研究会出版物の遵守事項

「表紙」「扉」「奥付」には、従来通り、「大学英語教育学会（JACET）〇〇研究会」と明記するだけでもよいが、編者及び著者等の個人名を加えてもよい。

記載例：大学英語教育学会（JACET）〇〇〇研究会（森住衛・岡田伸夫・神保尚武他）編、森住衛・岡田伸夫・神保尚武（大学英語教育学会（JACET）〇〇〇研究会）編

2007年度研究会一覧〔（ ）内は代表名 2007年5月現在41研究会が活動〕

【北海道支部】（4）

CALL（上野之江）、CCR（横山吉樹）、談話分析（北海道）（小林敏彦）、ESP（北海道）（内藤永）

【東北支部】（2）

語彙指導（福地和則）、自律学習（小嶋英夫）

【関東支部】（17）

教育問題（久村研）、文学（田中英史）、SLA（関東）（佐野富士子）、テスト（石川祥一）、言語接触（杉本豊久）、談話行動（村田久美子）、英語辞書（赤須薫）、オーラルコミュニケーション（塩沢泰子）、語法（喜田慶文）、国際理解教育（浅川和也）、バイリンガリズム（平井清子）、ESP（関東）（山崎敦子）、言語政策（三好重仁）、Critical Thinking（大野秀樹）、学習ストラテジー（尾関直子）、英語語彙（相澤一美）、言語教師認知（笹島茂）

【中部支部】（5）

待遇表現（堀素子）、ESP（中部）（馬場景子）、ライティング（木村友保）、異文化理解（吉川寛）、CPHとSLA（大森裕實）

【関西支部】（10）

教材開発（安田優）、海外の外国語教育（橋内武）、学習英文法（奥田隆一）、リスニング（樽井武）、文学教育（松田早苗）、リーディング（長谷尚弥）、ライティング指導（正木美智子）、ESP（関西）（幸重美津子）、英語力指標（辻伸幸）、英語教育総合（成田一）

【中国・四国支部】（1）

アジア地区大学英語教育（筏津成一）

【九州・沖縄支部】（2）

東アジア英語教育（木下正義）、ESP（九州・沖縄）（安浪誠祐）

全国大会運営委員会報告

委員長 渡辺敦子・国際基督教大学

第46回及び47回JACET全国大会のご案内をいたします。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

第46回（2007年度）全国大会

大会テーマ：「小中高大を見通した大学英語教育——貫したカリキュラムを求めて」

English Education at the Tertiary Level — in Search of a Consistent Curriculum from Elementary School through University

日時：2007年9月6日（木）～9月8日（土）

会場：安田女子大（広島市安佐南区安東6-13-1）

第47回（2008年度）全国大会

大会テーマ：「グローバルな英語コミュニケーション能力とは——英語教育再考——」

What is Global English Communicative Competence? : A Reconsideration of English Education in Japan

日時：2008年9月11日（木）～9月13日（土）

会場：早稲田大（東京都新宿区西早稲田1-6-1）

大会に関してご意見等ございましたら全国大会運営委員会までお寄せください。

編集後記

広報・通信委員会の編集メンバーが今年から新しくなりました。この7月号は、新しいメンバーでの初めてのJACET通信です。この通信を出版するにあたっては、前委員長の中鉢恵一先生や、中里喜彦先生はじめ前委員の先生方から、有益なアドバイスをいろいろ頂きました。ありがとうございました。

これからJACET通信をますます有意義な発信型の読み物にしていきたいと編集メンバー一同決意をあらたにしておりますので、どうかよろしくお願いたします。また、広報・通信委員会に要望などございましたなら、遠慮なくご意見をお伝えください。

編集委員

理事 木村松雄・青山学院大学
委員長 尾関直子・明治大学
副委員長 大須賀直子・秋草学園短期大学
副委員長 田口悦男・大東文化大学
委員 木村みどり・東京女子医科大学
Kate Allen・神田外語大学
Miller J. Charles・白鷗大学
遠藤雪枝・明治大学・非

2007年7月1日発行

発行者 大学英語教育学会 (JACET)
代表者 森住 衛
発行所 162-0831 東京都新宿区横寺町 55
電話 (03) 3268-9686
FAX (03) 3268-9695
<http://www.jacet.org/>
印刷所 228-0021 座間市緑ヶ丘3-46-12
有限会社 タナカ企画
電話 (046) 251-5775
